
スコアリングイントロダクション 2019

2019 年 CDP スコアリングのご紹介



CDP スコアリングイントロダクション 2019 - バージョン管理

バージョン	公開日	変更点の概要
1.0	2019年3月27日	初版
1.1	2019年4月11日	“配点”の章において、全プログラムのマネジメントとリーダーシップスコアの閾値を修正しました。(8 ページ) “良い回答例”の章において、C2.3a(自社の財務や戦略に重大な影響を及ぼす可能性のあるリスクの詳細)と C2.4a(自社の財務や戦略に重大な影響を及ぼす可能性のある機会の詳細)での企業に特化した記述についてアップデートしました。(12 ページ)
1.2	2019年5月8日	“質問書簡易版のスコアリング”の章において、「年間売り上げが2億5000万ユーロ/米ドル以上の企業が初めて CDP に回答した場合、スコアリングされません。」という文言を削除しました。(18 ページ)

目次

CDP 回答評価方法の概要	5
イントロダクション	5
参照頂きたい文書	5
データの質と正確性	5
スコアリングのアプローチ	7
スコアリングの原則	7
回答評価手法の文書の理解	7
得点の配分	7
回答ルート	9
スコアリングカテゴリとウェイト	9
得点の配分	10
他の質問との照合	10
外部サイトへのリンク、添付文書、"Further Information"欄への記載、他の質問への回答の参照	11
無回答の質問	11
質問内容に合致していない回答	11
説明の記述	11
企業に特化した説明	12
事例やケーススタディ	13
明確な根拠	13
無回答と回答遅延	13
情報開示レベルの評価	14
認識レベルの評価	14
マネジメントレベルの評価	14
リーダーシップレベルの評価	15
A リスト	15
リーダーシップ回答のレビュー	16
1. 回答の再確認	16
2. RepRisk によるチェック	17
3. 各国オフィスによるチェック	17

4. スコアリング運営委員会	17
回答の公表	17
第三者検証	17
免責事項.....	18
簡易質問書の回答評価	18
回答評価手法に関するフィードバックとお問合せ先.....	18
付録 I - 利益相反に関するポリシー	19
回答評価における利益相反に関するポリシー	19
回答評価手法の作成	19
スコアリングプロセス	19
スコアに影響を与える資金提供と行為の制限.....	20
付録 II - スコアリング・アピール・ポリシー	21

CDP 回答評価方法の概要

イントロダクション

CDP のミッションは、市場の力と協働し、企業に環境や天然資源の影響を開示して悪影響を低減するための行動を起こすことを促しています。CDP の回答評価はこのミッションに密接に関わっています。CDP は回答評価手法を活用して、企業が CDP 気候変動、ウォーター、フォレスト、サプライチェーン質問書への回答を通して環境影響を測定し管理するための動機付けを行っています。CDP2019 質問書はセクター別のアプローチを採用しており、各質問書(気候変動、ウォーター、フォレスト)には、一般質問書と、影響の大きいセクター向けのセクター別質問書を設定しています。これらの質問書はそれぞれ異なる評価手法が用いられます。CDP 質問書のスコアリングは、CDP によってトレーニングを受け、認定されたスコアリングパートナーによって実施されます。CDP 内部のスコアリングチームは、全てのスコアとデータの質のチェックを行い、全てのスコアリングパートナーと各サンプルの間で採点基準が守られているか、クオリティ・アシュアランス・チェックを行っています。

2019 年の一般質問書とセクター別質問書の詳細なガイダンスは以下よりダウンロード可能です。

www.cdp.net/guidance/guidance-for-companies

回答評価手法は、企業の環境ステewardシップに対する進捗を、CDP 回答内容から評価する手段です。この手法は最終的に評価に基づいてスコアを算出します。セクター別の評価手法では、回答企業が同業他社とのベンチマークや比較に活用できるように、セクターに特化したスコアを算出します。回答評価手法では、回答内容の詳述の度合いや、環境問題への認識の度合い、環境問題の管理、環境ステewardシップに向けた進捗を評価します。CDP は評価の透明性を高めるために、全てのプログラム、全てのセクターの回答評価手法をオンライン上で公開しており、ウェビナーやその他の機会にご説明を行っています。

参照頂きたい文書

CDP2019 質問書の回答を開始する前に、本書と、自社が回答するプログラムおよびセクターの CDP2019 回答評価手法、CDP2019 回答ガイダンスの文書を一読頂くことを推奨しています。回答ガイダンスでは各質問を回答する際に回答頂きたい要素を説明しており、その内容が回答評価手法にも反映されています。回答データを比較可能なものとするためには、全ての回答企業に同様の手法で数値計算や回答の記述を行って頂く必要があります。回答ガイダンスではそれをどのようにすればよいのかを、他機関が発表している報告や評価のフレームワークにも触れながら説明しています。回答ガイダンスは以下よりダウンロード可能です。

www.cdp.net/guidance/guidance-for-companies

データの質と正確性

CDP のスコアリングパートナーは、各企業が CDP に回答した回答内容に基づいてスコアリングを行います。CDP やスコアラー、レポートライターが、企業回答に記載されている情報を検証することはありません。回答評価手法に特別に記載がない限りは¹、CDP への回答以外から得られる情報を、各質問レベルの評価で参照することはありません。ウェブサイトやサステナビリティレポートなどの外部情報をスコアリングの際に考慮することはありません。回答企業は、回答内容を一般公表する、しないに関わらず、CDP

¹ CDP2019 気候変動プログラムの回答評価手法においては、科学的根拠に基づく排出削減目標(SBT)について、SBT イニシアチブの公式な認定を受けているかどうかの検証を行います。

署名投資家プログラムで回答した内容は、全 CDP 署名投資家に共有されることについてご理解ください。そして、自社の現在の状況を可能な限り反映した完全で正確な情報を回答するようにお願いします。

スコアリングのアプローチ

スコアリングの原則

CDP のスコアリングは、CDP のミッションに即して、持続可能な経済のための CDP の原則と価値に焦点を当て、それを行うためのビジネスケースを強調するものです。スコアリングは、ベストプラクティスを達成するためのロードマップを企業に提供し、毎年スコアリング手法を改訂することによって、企業の行動の変化を促進して環境パフォーマンスを向上させることができます。CDP の各プログラムの一般質問向けの評価手法は、全ての企業、全てのセクター、全ての地域にある程度当てはまるような行動を奨励するように設計されています。セクター別の評価手法は、全ての地域において、そのセクター内で活動している企業にのみ適用可能な行動を奨励します。評価手法をよく理解している企業にとって、スコアは他の企業との比較のスナップショットを提供します。

回答評価手法の文書の理解

回答評価手法の文書をご覧頂くと、全般にわたって、“得点”(numerator)と“配点”(denominator)の欄が設定されています。“配点”欄は各質問で獲得可能な最大の点数を示しています。質問によっては、回答を記入することにより、スコアラーの判断は必要なく、自動的にその最大の点数が付与される場合があります。このような場合、その最大の点数が、“得点”欄に記載されています。それ以外の場合には、“得点”欄は空欄となっており、スコアラーが判断して点数を決定します。

特定の回答ルートの配点の合計が、一連の質問の下に太字で表示されています。多くの場合、表形式での回答が求められる場合のように、複数のデータセットを回答する質問では、最も高評価となるデータセットが得点として記録されます。しかし、質問によっては、最初の行に回答したデータセットの点数が得点として採用される場合もあれば、全てのデータセットの評価を反映した点数が得点として採用される場合もあります。どのようなアプローチを採用しているかは、各質問レベルの評価基準に記載があります。

得点の配分

回答企業は、環境スチュワードシップに向けた進捗を示す以下の 4 つの連続したレベルに渡って評価が行われ、どの段階にあるのかが示されます。

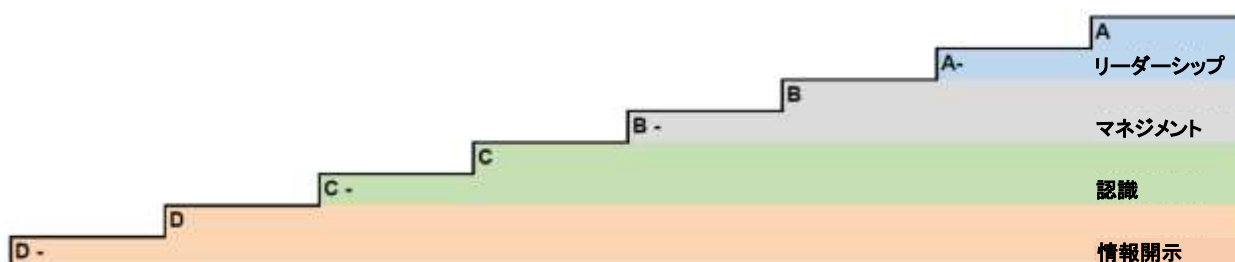
- 1) 情報開示
- 2) 認識
- 3) マネジメント
- 4) リーダーシップ

スコアリングの最終段階において、情報開示と認識レベルで付与された得点の合計は、配点の合計で除かれ、100 をかけたパーセントの値に変換され、整数値に四捨五入されたものが各レベルのスコアとなります。マネジメントとリーダーシップレベルでは、スコアリングカテゴリごとに獲得した得点の合計を各カテゴリのウェイトによって重みづけして最終スコアを算出します。(“スコアリングカテゴリとウェイト”の章を参照)

次のレベルで評価されるためには、最低レベルのスコアおよび/または最低レベルの指標をクリアしていることが必要です。最低スコアの閾値が達成されない場合、回答企業は次のレベルのスコアを獲得できません²。(閾値については以下を参照)

レベル	気候変動	ウォーター	フォレスト	最終スコア
情報開示	0-44%	0-44%	0-44%	D-
	45-79%	45-79%	45-79%	D
認識	0-44%	0-44%	0-44%	C-
	45-79%	45-79%	45-79%	C
マネジメント	0-44%	0-44%	0-44%	B-
	45-79%	45-79%	45-79%	B
リーダーシップ	0-79%	0-79%	0-79%	A-
	80-100%	80-100%	80-100%	A

最終スコアは A～D で表わされますが、これは獲得した最も高いレベルで得られたスコアに基づきます。例えば、XYZ 社が情報開示レベルで 88%、認識レベルで 82%を達成し、マネジメントスコアカテゴリの重み付けを適用した後、マネジメントレベルで 60%を獲得した場合、最終スコアは B となります。リーダーシップレベルを除き、45%未満のスコアを獲得している場合には、最終スコアにマイナスが付きます³。例えば、ABC 社が情報開示レベルで 81%、認識レベルで 42%を達成した場合、最終スコアは C-となります。



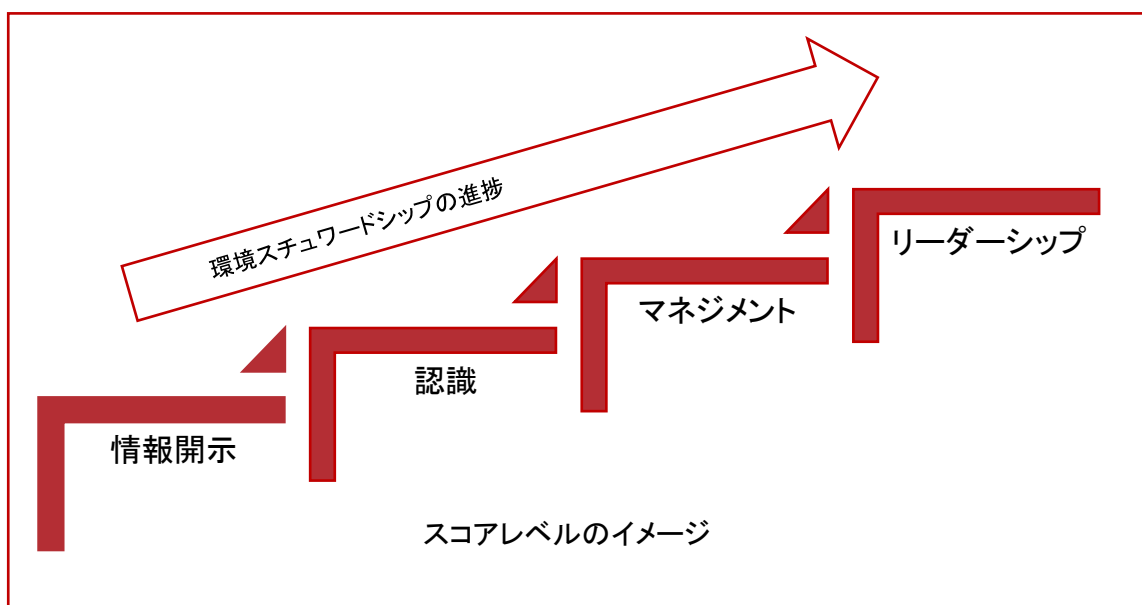
結果は、環境スチュワードシップのどのエリアに位置するのかわかる現在のレベルとともに、改善するためにはどのような活動を目指すべきかを示されます。

一つの質問に 2 つ以上のレベルの評価基準が設定されている場合があります。一つのレベルの評価基準は質問書全体に渡って設定されています。全ての質問において情報開示レベルの評価が実施されますが、認識、マネジメント、リーダーシップレベルの評価は実施されない質問もあります。

CDP スコアは、CDP への回答に記載された活動や立場にのみ基づいて評価されているため、必然的に制限されていると言えます。したがって回答に記載されていない他の活動は考慮されず、そのような活動は環境的に良いものも悪いものもある可能性があることにご注意ください。

² CDP は、企業の全体的な進捗状況を最もよく表すために、これらの閾値を調整する権利を留保します。

³ CDP は、企業の全体的な進捗状況を最もよく表すために、これらの閾値を調整する権利を留保します。



これらのレベルは、別表で示した A~D のスコアで示されます。

F = 回答評価に十分な情報を提供していない⁴

回答ルート

選択形式の質問において、どの選択肢を選択するかで後に続く質問が異なり、配点の合計は異なってきます。多くの場合、“Yes”を選択した企業の方が、“No”を選択した企業よりも、より高い配点になります。しかし、このように異なる質問のルートがスコアに影響しないよう、スコアは正規化されてパーセントの値で表示されます。最終スコアは、獲得した得点の合計を回答すべき全ての質問の配点の合計で除して計算します。従って、質問内容が自社に該当せず、より少ない質問数しか提示されない場合であっても、その企業は評価上不利になることはありません。

スコアリングカテゴリとウェイト

2019 年のスコアリングカテゴリは、2019 質問書の各モジュールのサブグループであり、各プログラムそれぞれで異なりますが、一つのプログラムにおいては全てのセクターで共通です。各プログラムの各セクターはそれぞれ異なる形で環境問題の影響を受け、それを管理しています。この特徴を反映するため、各プログラムで、セクター別スコアリングカテゴリに異なるウェイトを設定しています。

ウェイトは、各スコアリングカテゴリのマネジメントとリーダーシップレベルに提供されます。各カテゴリのウェイトは、最終スコアにおける相対的な重要性を反映しています。各セクター内のほとんどのスコアカテゴリは、マネジメントとリーダーシップレベルの両方に対して同じウェイトとなっています。

スコアリングカテゴリごとのマネジメントとリーダーシップレベルのウェイトを考慮した計算方法は次のとおりです。まず、カテゴリの得点の合計 / カテゴリの配点の合計 × 100 でパーセント表示のカテゴリの得点率を計算します。それに、ウェイト(%)を掛けた値がカテゴリスコアとなります。全てのカテゴリスコアを合計した値が、最終的な各レベルのスコアとなります。

⁴ 全ての企業が CDP に回答要請を受けている訳ではありません。回答要請を受けているものの、無回答であったり、十分な情報を提供していない場合、スコアは F となります。ただし、F の場合でも、環境ステewardシップが不十分であることを示している訳ではありません。

スコアリングカテゴリのウェイト例

- ▼ “リスク開示”のカテゴリにおいて、マネジメントとリーダーシップレベルのウェイトはそれぞれ8%に設定されています。C2.3aで、マネジメントポイントを11点、リーダーシップポイントを1点、得点しているとします。

質問	カテゴリ	マネジメント 得点	マネジメント 配点	リーダーシップ 得点	リーダーシップ 配点	ウェイト	マネジメント スコア	リーダーシップ スコア	マネジメント最終 スコアのうち当該 カテゴリ分	リーダーシップ最終 スコアのうち当該 カテゴリ分
2.3a	リスク開 示	11	15	1	3	8%	73.3%	33.3%	5.86	2.66

- ▼ マネジメントスコアは、マネジメントの得点／マネジメントの配点で算出されます。
($11/15*100=73.3\%$)
- ▼ このカテゴリスコアを算出するには、当該カテゴリのウェイト8%のうち何%獲得できているかを計算します。
 $73.3\%*8\%=5.86$
- ▼ 各レベルの最終的なスコアを算出するには、各カテゴリスコアを合計します。

得点の配分

ポイントを付与する方法は質問ごとに異なり、回答企業は回答を準備する際に採点方法を詳しくチェックすることをお勧めします。いくつかの質問では、与えられた各データポイントにつき、その質問で利用可能な最大ポイントまで、ポイントまたはポイントの一部が累積的に与えられます。その他の質問では、任意のポイントが付与されるためには、要求された全てのデータポイントを提供する必要があります。後者の場合、回答欄を空白のままにしたり、必要なデータポイントを提供しなかったりすると、その質問の得点は0ポイントが付与されることとなります。また、回答されたデータの量に比例して与えられるポイントもあります。この方法は、一部の表形式の質問が該当します。この場合、回答行を追加して提供される情報量に比例してポイントを付与することによって、開示されたすべての行について完全な回答を行うことを促進します。スコアリングにおいては、当該質問の配点が、回答された行数で除され、追加された行ごとに回答された情報量に応じたポイントが付与されます。

回答評価手法は有益なフィードバックを提供するように設計されているため、回答企業は自社に最も関連し、自社の現在の状況を適切に反映し、入手可能な情報を回答しなければいけません。これにより、最終スコアが回答企業のパフォーマンスを反映し、コミットメントを進めるための有用なフィードバックを提供することができます。

他の質問との照合

回答評価手法を通して、採点基準は関連する他の質問のスコア／回答を参照することがあります。場合によっては、ある質問で点数を付与されていること、別の質問の点数を獲得するための前提条件となります。また、ある質問で点数を付与されていることによって、別の質問の点数を獲得することができます。このように、他の質問を参照することは、企業の対応における一貫性を保証するための採点メカニズムとして使用されます。どの質問と関連しているかは明確にされており、どのような閾値で評価されるかは各質問に固有の条件となっています。

外部サイトへのリンク、添付文書、"Further Information"欄への記載、他の質問への回答の参照

スコアは、CDP のオンライン回答システム(ORS)に記載された内容に基づいて評価されます。特に明記されている場合を除き、回答欄に記載された情報のみが評価されます。

ORS には、“further information”欄が設けられており、また回答には文書を添付することもできます。ここで提供された情報は、投資家や回答要請を行っているサプライチェーンメンバーにも共有されますが、評価には反映されません。ただし、質問で回答の根拠となる文書の添付を求めている場合には、正しい回答欄の場所に該当文書を添付してください。もし文書がオンライン上でのみ入手できるものである場合には、その画面を PDF 形式で印刷したものを添付してください。どのようなファイル形式の文書を ORS に添付可能かは、回答ガイダンスを参照してください。

添付文書は、質問で特別に求められている場合のみ、内容を確認されます。(例:GHG 排出量の第三者検証／保証書類)

同様に、一つの質問の評価は、その質問の回答欄に記載された情報のみに基づいて行われます。他の質問で提供された回答への参照は、評価基準で指定されている場合を除き考慮されません。

無回答の質問

無回答の質問には、その質問または一連の質問の最大の配点に対して 0 点の評価となります。特定の重要なデータポイントの場合、無回答の質問には、その質問で可能な最大得点よりも大きい配点に対して 0 点の評価となる場合もあります。これらの重要なデータポイントは回答評価方法で強調されています。表形式の質問において、表内の空白のセルは、質問に回答しない、またはデータを開示しないことを選択したと解釈されます。原則として、質問に対して情報開示ポイントが付与されていない場合は、認識、マネジメント、またはリーダーシップレベルのポイントの対象にはなりません。

質問内容に合致していない回答

質問が明らかに誤って回答されている場合は、その質問に対してポイントは付与されません。これには、明らかに質問に答えていない回答、ドロップダウンメニューからの選択肢と矛盾した記述、表形式の質問で間違ったセルに回答を入力している、というようなケースがあります。

説明の記述

質問書に示された特定の質問に答えるだけでなく、理由や状況についての記述を回答する必要があります。「これは当社の事業には関係ありません」というような記述は、なぜどのようにそのトピックが自社に関連性がないのかが説明されていないため、説明とはみなされません。この場合の良い回答例は、次のとおりです。「鉱業会社として、地方自治体の取水は〇〇の事業所にものみ関連しています。これらの取水量は、当社の採掘事業における直接の取水と比較して最小限であり、重要とは見なされないため報告しません。」

重複する説明(例えば質問間でコピー・ペーストされている)は、特定の質問の文脈において意味が通り、採点基準で要求された詳述内容を提供している場合には得点が与えられます。一般に、企業は各質問に合わせて説明文を調整し、不必要にポイントを失うことを避けるためにテキストをコピーするときには注意を払う必要があります。

企業に特化した説明

採点方法全体を通して、「企業に特化した説明」に対していくつかの得点が与えられます。企業に特化した説明とは、その企業の事業に特有の活動、プログラム、製品、サービス、方法論または事業所に関連する説明です。同業他社や同じ地域で操業している他の企業と区別できる、その回答企業のみには当てはまる内容を記述してください。企業に特化した説明は、当面の問題が回答企業自身のビジネスの文脈の中で徹底的に検討されており、単に一般的な観点から評価されているのではないことを回答閲覧者に理解させることができます。このような説明の例については、以下を参照してください。

C2.3a - 御社の事業に実質的な財務的または戦略的な影響を及ぼす可能性があるとして特定されたリスクを記入してください。

- [企業固有の内容]欄で、企業に特化した記述をしてください。-1点

不十分な回答例 - 0点	平均的な回答例 - 0点	良い回答例 - 1点
平均気温の上昇は、当社の事業に悪影響を及ぼす可能性があります。	平均気温の上昇により、冷暖房に必要なエネルギー消費量が増加し、コストが上昇する恐れがあります。当社の店舗、事務所、流通センターでは、エネルギー消費量が増加するという特別なリスクがあります。	当社の工場の60%は、平均気温の大幅な上昇の影響を受けやすいとされている中央アメリカにあります。効率的に稼働を続けるためには、気温上昇によって空調および冷蔵に必要とされるエネルギー消費が15~20%増加すると考えられます。これにより、事業全体で運用コストが約20%増加します。

C2.4a - 御社の事業に実質的な財務的または戦略的な影響を及ぼす可能性があるとして特定された機会を記入してください。

- [企業固有の内容]欄で、企業に特化した記述をしてください。-1点

不十分な回答例 - 0点	平均的な回答例 - 0点	良い回答例 - 1点
気候変動の結果としての商品やサービスに対する需要の増加は、当社にとって評判上の好影響をもたらされる可能性があります。	気候変動によって評判上の好影響をもたらされる可能性があります。当社は自社製品の持続可能性へのコミットメントについて消費者に知らせるためにさまざまな情報プログラムに積極的に取り組んできました。	当社の実績を考えると、気候変動によって評判上の好影響をもたらされる可能性があり、その結果、商品やサービスに対する需要が高まります。当社ブランドが持続可能であると認識されるようにするために、消費者とさまざまな情報プログラムに積極的に取り組んできました。この取り組みの例としては、梱包に関する直接キャンペーン(2018年にはすでに当社の製品の75%の梱包材に持続可能性に関する情報記載しました。)や、当社施設の30%を再生可能エネルギーとするための太陽光発電の導入といったさまざまな持続可能性プログラムがあります。競合他社はそのような取り組みを実施しておらず、気候変動への意識が消費者にとってより大き

		な問題になるにつれて、店頭販売とオンライン販売の両方が増加すると予測しています。
--	--	--

事例やケーススタディ

いくつかの質問については、回答を裏付けるための具体的な事例やケーススタディを提供することでポイントが与えられます。事例またはケーススタディには、時間または場所に固有の説明を含める必要があります。たとえば、アプローチが適用されている地域や特定のサプライチェーンなどです。

CDP 回答評価方法によって要求されるケーススタディを記述する際に、「Situation-Task-Action-Response (STAR)」フレームワークが役立つかもしれません。

- 1) 状況 (Situation): 現状や背景はどのようなものか
- 2) 課題 (Task): 何をしなければならないのか / 解決すべき課題は何か
- 3) 行動 (Action): 実施した一連の行動はどのようなものか
- 4) 結果 (Result): 行動した結果、最終的にどのような成果が得られたか

評価基準を満たすためには、上記のいくつかまたは全てのステップにおいて、企業に特化した記述が必要となります。

明確な根拠

回答評価方法を通して、「明確な論理的根拠」を提供するとポイントが付与される場合があります。これは、回答企業によって実施された方法論、説明、決定および行動に対する論理的な根拠を提供する説明として定義されています。

無回答と回答遅延

全ての企業が CDP に回答要請を受けている訳ではありません。回答要請を受けているものの、無回答であったり、十分な情報を提供していない場合、スコアは F (failure to provide sufficient information to be evaluated) となります。締切を過ぎて回答した場合には、“not scored”と表示されます。

情報開示レベルの評価

質問書の全質問は、情報開示の度合いを評価されます。一般に、各質問に割り当てられる点数は、要求されたデータ量とデータ利用者にとっての相対的な重要性の両方に依存します。データポイントは、情報開示レベルの1ポイントとほぼ同等ですが、情報の重要性が特に高い場合、質問には1つの情報に複数のポイントが割り当てられます。記述式の回答の場合、要求されているデータポイントがいくつ提供されているかに応じて採点されます。要求されているデータポイントは全て、2019 回答評価手法で設定されています。

認識レベルの評価

認識スコアは、環境問題が事業とどのように関連するかについての企業の評価の包括性を示しています。企業の評価には、事業活動が環境に与える影響、これらの活動が人や生態系に与える影響、環境が事業活動に与える影響が含まれます。これは、特定の企業が直面するビジネスリスクの大きさに影響します。

認識スコアは、企業が初歩的なスクリーニングや評価を超えて環境問題に対処するための行動を取ったことを示すものではありません。問題に対処するための行動は、次のレベルの得点 – マネジメントで表わされます。

マネジメントレベルに進むには、回答企業は得点可能な認識ポイントのうち、閾値を超えるスコアを獲得する必要があります。閾値は暫定的に設定され、スコアリング期間中の回答の分布が回答集団全体の現在の進歩のレベルを表していることを確認し、採点期間中に見直される場合があります。

マネジメントレベルの評価

マネジメントポイントは、良好な環境管理に関連する行動の根拠を提供する回答に対して付与されます。より進んだ環境ステewardshipを示す回答にはより高いポイントが与えられます。マネジメントレベルでスコアカテゴリごとに算定されたポイントは、スコアカテゴリのウェイトに従って、最終的なマネジメントスコアを計算するために使用されます。

自社の事業が環境にどのように影響を与え、環境が自社の事業にどのように影響を与えるかを評価した後、企業は悪影響を減らすために取るべき行動を決定できます。リスクを低減し、影響の大きいサイトでの環境指標の測定を進め、リスク評価をより強固かつ包括的にし、環境方針を実施し、そして環境問題を事業戦略に統合するための努力をすることができます。マネジメントスコアは、これらすべての分野での行動を評価します。環境問題は特定の企業の事業運営に特有のものであるだけでなく、状況に特有のものである可能性があるため、特にフォレストやウォータープログラムにおいて、特定の一連の行動をすべての企業にとって普遍的に正しいと推奨することはほとんど不可能と言えます。したがって、マネジメント評価では、行われた特定の行動の適切性または有効性を判断することよりも、企業によるプロセスおよび手順の開示に依存しています。気候変動は、地球規模で固有な環境問題であり、GHG 排出量の削減という形ですべての企業に関連性があり、どの企業にも同様に適用可能な緩和行動が必要です。したがって、気候変動プログラムのマネジメント評価は、管理活動としてこのスコアリングを推奨しています。

リーダーシップレベルの評価

リーダーシップレベルを獲得するためには、企業は回答評価手法に記載されているリーダーシップポイントを獲得しなければなりません。これらの行動は、環境ステewardshipを推進するために CDP が協働している機関(例:CEO ウォーターマンドート、CERES、WWF)によって策定されたベストプラクティスを表しており、多くのケースは、既に環境方針や環境活動において主導的な企業によって報告されている内容です。リーダーシップレベルでスコアカテゴリごとに算定されたポイントは、スコアカテゴリのウェイトに従って、最終的なリーダーシップスコアを計算するために使用されます。

気候変動プログラムでリーダーシップレベルを達成した企業は、他のすべてのレベルで高い得点を示しており、リーダー企業として認められる具体的な行動を開示しています。これら企業の回答は、気候変動に関連するリスクと機会についての完全な理解を示し、そしてこれらのリスクを低減し機会を最大化するための戦略を策定し実行しています。そして、GHG 排出量を検証し、全社的な目標を達成するために排出量削減戦略を導入しています。

ウォータープログラムでリーダーシップレベルを達成した企業は、他のすべてのレベルで高い得点を示しており、リーダー企業として認められる具体的な行動を開示しています。このような企業は水関連リスクを評価するしっかりとした手順を導入し、そのリスク影響を事業の成長戦略において評価しています。水管理が事業戦略に組み込まれており、明確な全社的な定量的な目標、定性的なゴールを設定しています。これらの企業は情報開示において、自社にとって重要な範囲を報告除外対象に含めていません。

フォレストプログラムでリーダーシップレベルを達成した企業は、他のすべてのレベルで高い得点を示しており、リーダー企業として認められる具体的な行動を開示しています。このような企業は全ての関連する事業所、サプライチェーン、コモディティについて回答しており、重要な範囲を報告除外対象に含めていません。また包括的で完全なリスク評価を行っており、コミットメント達成に向けた活動を行っています。

A リスト

気候変動や水問題、森林減少によるリスクを緩和するために、積極的かつ有効な活動を行っている企業を認識するために、CDP は、高いリーダーシップスコアを獲得した企業を、各プログラムの A リスト企業として認めています。企業が A リストとして認定されるには、回答にいくつかの要件があり、回答提出後に CDP によって実施されるいくつかのチェックに合格する必要があります。質問の要件については以下の表をご覧ください。

各プログラムの A リスト認定に必要な基準を満たすためには、企業は回答に含めなければいけない要件(青色)と、合格しなければならない要件(赤色)があります。

	気候変動	ウォーター	フォレスト
重要な範囲を報告除外対象に含めていない (C6.4, C6.4a, F0.6a, F0.7a, W0.6)	✓	✓	✓
スコープ 1, 2 総排出量のそれぞれについて 70%以上の第三者検証を受けている (C10.1a)	✓		
最低限のリーダーシップポイントを獲得している (各プログラムにより異なる)	✓	✓	✓
投資家要請質問書について回答を一般公開している	✓	✓	✓
森林減少と森林劣化に関するコミットメントに対する行動をとっている			✓
CDP スコアリングチームによるリーダーシップ関連質問のマニュアルチェック	✓	✓	✓
RepRisk による評判リスク問題に関するチェック	✓	✓	✓
CDP 各国オフィスのチェック	✓	✓	✓
CDP スコアリング運営委員会の承認	✓	✓	✓

リーダーシップ回答のレビュー

A リスト企業は CDP のレポートや報告会等のイベントにおいて世界的に認められるというベネフィットがあります。この認定を保証するために、A リスト企業決定の際には、正式なしっかりしたプロセスをとっています。スコアリングパートナーから CDP にスコアが提出されると、A リストレビューのプロセスが開始されます。A リストに認定されるためには、以下の 4 つのステップをクリアすることが必要です。1 つでもクリアできない要件があった場合には、スコアは A- となります。A- の企業は、良いパフォーマンスを行っていますが、A リスト要件の全てを満たしていないため A リストには含まれません。

4 つのステップは以下のとおりです。

1. CDP スコアリングチームによる回答の再確認
2. RepRisk による評判リスク問題のチェック
3. CDP 各国オフィスによるチェック
4. CDP スコアリング運営委員会の承認

1. 回答の再確認

CDP はリーダーシップレベル (A または A-) にある全ての企業の回答をレビューし、リーダーシップと判断するために、回答内容が十分に詳述され、十分に高い質のものであるかを確認します。

再確認するポイントは以下のとおりです。

- 1) 回答が全般的に明確であり、曖昧な意味合いのものがない
- 2) 関連する情報を網羅し、求められている内容を回答している
- 3) 各質問に対して明確に適切なレベルの詳述を行っており、データ利用者にとって有益な情報を提供している

回答に重要な情報が欠けている場合にはリーダーシップから除外されます。その例としては、全世界的に事業を行っている企業が 1 カ国のみの事業に基づいた回答しか行っていない場合や、大きな環境影響が

あり、事業にとって重要であると考えられる事業分野の情報を開示していない場合などです。過去の回答の分析に基づき、回答企業の 0.1%がそのような重要名情報を開示していないことが予想されています。直近の合併や買収など、適切なビジネス上の理由により、回答できない情報がある場合には、問題とはみなされません。

2. RepRisk によるチェック

CDP は、最高レベルのスコアを達成した全ての企業をレビューして、CDP の回答に含まれていない、またはパブリックドメインで利用可能なものが A リストに含まれていないかどうかを確認します。2019 年、データプロバイダである RepRisk から提供される、報告年における CDP のプログラムに関連する社会的・環境的トピックのデータに基づき、レビューを行います。

RepRisk は、批判を捉え、企業およびプロジェクトの ESG リスクに対するエクスポージャーを定量化する定量的手法を提供しています。RepRisk は 28 の ESG 問題と 36 のトピックタグにおいて、15 の言語で 80,000 以上のソースのデータをスクリーニングします。

CDP スコアリングチームは、CDP に関連するか、または潜在的な可視性が高いタグと問題に従って、RepRisk データベースで A リスト候補企業をレビューします。RepRisk インデックス (RRI) が「50/100」を超える企業にはフラグが立てられ、スコアリングチームによってさらなる調査が行われます。

3. 各国オフィスによるチェック

スコアリングチームは、A リスト候補企業のリストを世界中の CDP オフィスにいるアカウントマネージャーに送り、A リスト候補企業に関する各国の評判を反映することができるようにします。各国オフィスのアカウントマネージャーは、スコアリングチームと共に、地元のメディアや地元のステークホルダーの間で取り上げられた潜在的な評判の問題を特定し、A リストや CDP の信頼性を損なう可能性があるかと判断する場合にはスコアリング運営委員会に報告して当該企業を A リストから外すことができます。

4. スコアリング運営委員会

レピュテーションチェックの最終段階として、スコアリングチームは RepRisk による分析、各国オフィスによるコンサルテーションの結果をもとに、運営委員会に A リストに該当する最終候補企業リストを運営委員会に報告します。スコアリング運営委員会が、A リスト企業の最終決定を行います。

A リストから漏れた企業は、その理由を個別にフィードバックされます。この決定は外部に公開されることはありません。

回答の公表

A リストに選定されるためには、CDP オンライン回答システムから回答を提出し、一般公表する必要があります。

第三者検証

気候変動プログラムにおいて、企業が A リストに選定されるためには、CDP が認定した検証基準のもとでスコップ 1, 2 排出量のそれぞれについて最低 70%の第三者検証を受けている必要があります。認定された検証基準の一覧は、CDP ウェブサイトからご覧いただけます。<https://www.cdp.net/en-US/Respond/Pages/verification-standards.aspx>このリストに含まれていない基準に関しては、verification@cdp.net まで、基準名と、可能であれば関連するウェブサイトのリンクやコンタクト先をご連絡ください。

免責事項

CDP スコアは、CDP 回答に記載されている活動と内容に基づいています。そのため、CDP の回答に記載されていない行動は考慮されず、データ利用者はこれらが環境管理の観点からプラスまたはマイナスである可能性があることに留意するよう求められます。このスコアは、企業の持続可能性や「グリーン」のレベルを包括的に示すものではなく、環境フットプリントに関する特定の指標ではありません。しかし、報告年度中の環境関連の問題による影響を評価し管理するために企業がやっている行動のレベルを示す一つの指標となります。

CDP2019 回答評価手法は現在も発展段階にあります。評価手法は一般に公開され、回答企業がどのように得点を与えられるのかを示しています。新たなリスク管理戦略やベストプラクティス、回答データの質、採点結果に基づき、CDP はスコアリング期間前や期間中を通して、基準や質問のウェイトを変更する権利を留保します。

簡易質問書の回答評価

投資家の要請に基づき簡易質問書に回答した企業はスコアリングを実施されません。

顧客企業の要請に基づき簡易質問書に回答した企業で、年間売上が 2 億 5000 万ユーロ/米ドル以下の場合、簡易質問書向けの回答評価手法に基づいてスコアリングされます。ただし完全版の質問書に回答した企業との比較ができないため、A リストには選定されません。

投資家と顧客企業の両方から回答要請があり、簡易質問書に回答した企業は、スコアは回答企業と回答要請を行った顧客企業にのみ開示され、一般には公表されません。

回答評価手法に関するフィードバックとお問合せ先

スコアのフィードバックを受けたい場合

scorefeedback@cdp.net

回答評価手法に関する質問やご提案がある場合

respond@cdp.net.

回答プロセスにおける特別なサポートをご希望の場合

reporterservices@cdp.net

上記について日本語でのお問合せをご希望の場合

japan@cdp.net

付録 I - 利益相反に関するポリシー

回答評価における利益相反に関するポリシー

2016年8月改訂

高品質の情報を提供する、独立した公平なプロバイダーとしてのCDPの評判を維持することが最も重要です。したがって、CDPは、この方針を採用し、質問書に回答した企業に対して当機関が与えるスコアの正確性に影響を及ぼす可能性がある利益相反のリスクを最小限に抑えます。

回答評価手法の作成

1. CDPスコアリングチームは、CDPの使命を推進し、環境問題に関する科学的知識を考慮に入れ、回答企業を公平に扱うような方法でCDP回答評価手法を作成する責任があります。スコアリングチームはこれらの要素のバランスを取り、それらについて独立した決定を下さなければならず、利益相反の可能性を最小限に抑えるために、チームメンバーの誰もが企業との継続的な関係に責任を負いません。

スコアリングプロセス

2. CDPスコアリングチームは、スコアリングプロセスの実施、スコアリングパートナーのトレーニング（下記の第4項で定義）、および発表前のスコアの検証を監督します。スコアリングチームは他のCDPスタッフに協力を要請することができます（例えば、特定の基準を満たすかどうかをチェックするために添付ファイルを翻訳するなど）。しかし、そのようなスタッフは未発表の回答またはスコアへのアクセスを許可されておらず、全てのスタッフは常に下記の第7項の禁止の対象となります。
3. 回答企業から提出された回答は、企業によって、またはCDPスタッフの指導によってのみ修正が可能です。
4. CDPに代わって回答評価を行う機関（スコアリングパートナー）は、CDPによって認められ、CDPのトレーニングプログラムを完了し、CDP回答評価手法を一貫して適用させるための内部のクオリアシユアランスプロセスを実施し、スコア公開前の最終チェックのためにCDPにスコアを提出しなければいけません。
5. スコアリングパートナーは、回答企業が自社の創業者、クライアント、競合他社に関係なく、全ての回答企業を平等に扱わなければいけません。従って、
 - a. スコアリング開始前に、スコアリングパートナーはCDPに、クライアントや創業者、競合他社が回答企業のサンプルに含まれているか、また回答準備やレスポンスチェックサービスを提供した企業が含まれているかをCDPに知らせなければいけません。
 - b. スコアリングパートナーが回答企業の回答準備やレスポンスチェックサービスを提供していた場合、他のスコアリングパートナーが回答評価を行います。
 - c. 客観性に影響を与える可能性があるその他の分野でスコアリングパートナーが回答企業と協力している場合、CDPはそのような回答の全てまたは一部のチェックを行います。
 - d. スコアリングパートナーの公平性に懸念がある場合、CDPはそのようなスコアリングパートナーのスコアに追加のチェックを適用するか、影響を受ける企業が別のスコアリングパートナーによってスコアリングされるように調整します。

- e. スコアリングパートナーが回答評価のアプローチを平等に適用していないことをCDPが発見した場合、CDPは直ちにそのスコアリングパートナーとの関係を解除し、影響を受けたスコアを確認および修正します。

スコアに影響を与える資金提供と行為の制限

6. CDPもスコアリングパートナーも、スコアの決定に影響を与えることが目的の資金提供は受け付けません。これは、助成金、スポンサーシップ、サービスの販売、またはその他の収入にも同様に当てはまります。
7. 回答を修正したり、回答評価手法や評価結果に影響を与えたり、あるいは他の当事者が個人的な利益を得るためにそれを支援したりするCDPスタッフやトラスティメンバーの行為は、重大な違法行為とみなされます。

付録 II - スコアリング・アピール・ポリシー

2019年1月21日改訂

1. 回答企業が、回答評価手法に従って回答が評価されていない、またはスコアが計算されていないという証拠がある、またはその証拠が存在すると信じる場合、CDP 担当者、または scorefeedback@cdp.net に提起することができます。
2. スコアアピールをするためには、回答企業は該当する質問とその評価基準を特定することによって誤った評価がなされたことを説明し、なぜ自社がこの基準に対しての評価の申し立てをしているのかについて説明しなければいけません。この情報はスコアアピールフォームを通してCDPに送付してください。記入済みのフォームは、**2020年2月1日 23:59 (PDT)**までに CDP 担当者に提出しなければなりません。それ以降の申し立ては受け付けません。
3. CDP スコアリングチームは、10 営業日以内に回答評価手法に従って申し立て内容を審査するように努めます。企業の申し立てに対する返答は、CDP 担当者から返却されるスコアアピールフォームを介して提供されます。
4. スコアアピールのプロセスによって再評価が実施され、新しいスコアが与えられる場合、CDP システム上で新しいスコアが表示されるようになります。
5. 申し立てされた回答分野の再評価が適切かどうかの CDP の決定は最終的なものです。